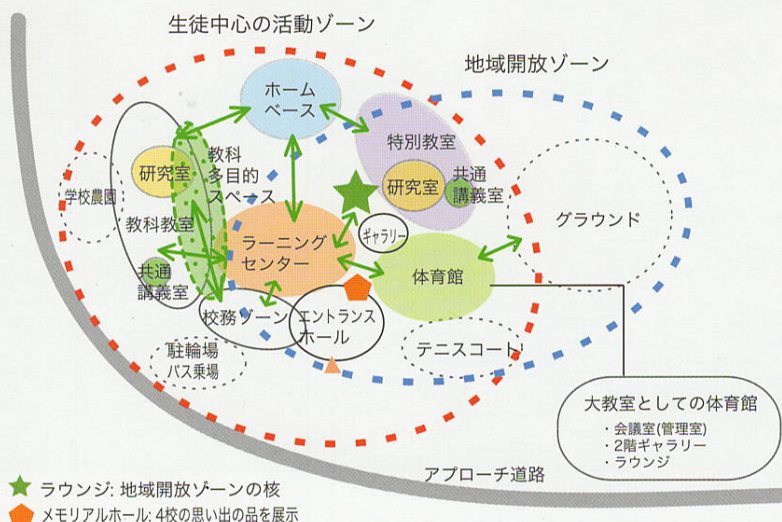




教科多目的スペース *1

1 学校長からのメッセージ

緩やかな曲線が描く大きなひとつ屋根の校舎。暖かい光の差し込む吹き抜けの大空間、ラーニングセンター。自ら動くことで、一日に何度もみんなが仲間だと気付かせてくれるよう配置されたホームベースと教科教室。環境にも人にも優しくと考えられた空調や採光。これら枚挙にいとまがないほど誇れるものを持つ学校、それが豊北中学校です。そしてさらに、このような恵まれた学習空間に集う生徒一人ひとりが、豊北中学校の誇れる生徒なのです。誇れる学校や生徒と自負できるのも、四中学校を統廃合し一中学校を新設するとの答申が出されてから開校までに要した九年の歳月に、その理由はあると思っています。その間、どんな学校にするかについて交わされた議論の中心は、豊北町の子どもたちにどんな力をつけたいかであり、そのためにふさわしい学習環境について、行政者と設計者と教職員のそれぞれが思いを出し合い、方向性を一つにするまでに要した時間こそが、誇れる源だと思うのです。開校準備が進む中、各種研究会で生まれた「自主と管理」「開かれた学校と生徒の安全」という対立軸も、つけたい力が何であるかに帰着することで解消していったのでした。生徒の自ら学ぶ力を育むとともに、地域の拠り所となる学校づくりにかかわられた多くの方々の夢と知恵を、私達は結実させていかなければならないと思っています。



学校全体ダイアグラム

■配置計画の考え方

エントランスホールの直近に来訪者を迎え入れるようにラーニングセンター(図書スペース)を計画し、地域の方と本中学校の大きな接点となるように配置しました。施設の重要な中心となるラウンジは地域の方が平日にも積極的にボランティア活動を行いながら、学校と一体となって生徒を地域全体で見守り、育てていくという目的を持ったスペースです。これらのスペースを中核として、体育館・美術室・技術室・音楽室・家庭科室と施設の東側を地域開放ゾーンとして計画し、地域の人々を段階的に迎え入れ、生涯学習の様々な利用に応える柔軟な空間づくりを行いました。特に体育館については、エントランスホールに直結した配置とし、地域の方も利用する度に、より学校とのかかわりを感じることが出来ます。またエントランスホールからラウンジにわたるスペースを4校統合のメモリアルホールとして位置づけ、各校からそれぞれに思い出の品を選び入れ展示しています。これは在校生が統合の歴史を知るとともに、卒業生たちが本中学校を訪れたときに、母校の記憶がよみがえる空間となることが意図されています。